

「基本」と「チャレンジ」

校長 前田 達彦

【「基本」の大切さ】

長崎県出身で、サッカー日本代表監督の森保 一（もりやす はじめ）さんは、「うまくいけなくなったら、基本に立ち返ればいい。」という言葉を残しています。私たちは、順調な時には、自分のやり方に自信を持てますが、思うような結果が出せない時は、「もっと特別な方法があるのではないか」とか「何か劇的に変えなければ・・・」と考えがちです。

しかし、森保監督は、そのようなときこそ「基本」を大切にします。サッカーで言えば、例えば、正確にボールを止める、周囲を見る、仲間と声を掛け合う、そして、最後まで走り切ること。この当たり前のことを一つ一つ丁寧に積み重ねることが、結果として勝利につながると考えているのです。

これは、学校生活にも、当てはまります。勉強で思うように結果が出ないときは、教科書を読み返し、基本問題を解き直すことが成長への近道になることがあります。部活動では、派手な技術だけではなく、あいさつ、準備、基礎練習を大切にすることが、確かな力につながります。友人関係でも、「相手の話を最後まで聞く」「ありがとうを伝える」「自分からあいさつをする」といった行動が、信頼を築いていきます。

テストで悔しい思いをしたり、部活動で壁にぶつかったり、進路に迷うこともあるでしょう。そんなとき、「自分には無理だ」と思うのではなく、まず「基本に戻ってみよう」と考えてみてください。基本に立ち返ることは、一見遠回りに見えても、最後には大きく成長していきます。これから、「基本」の大切さを意識して学校生活を送ってほしいと思います。

【チャレンジ】

皆さんにこの話をしたいと思ったのは、『ボヘミアン・ラブソディ』という映画を見たことがきっかけです。その映画はイギリスのロックバンド「クイーン」の歩みを描いた作品です。映画のタイトルにもなっている「ボヘミアン・ラブソディ」という曲は、オペラとロックが融合する曲で有名ですが、1970年代の当時は、曲が長すぎるとか、それまでにない斬新な曲ということもあり、賛否両論あって、いろいろと物議を醸したと言われています。しかし、メンバーは自分たちの信じる音楽を貫きました。その結果、この曲は今では世界中で愛される名曲となり、新しい音楽の歴史を築きました。

歴史を変えるような「チャレンジ」は、最初から多くの人に受け入れられるものではありません。新しいことに「チャレンジ」すれば、不安もあります。失敗もあります。批判を受けることもあります。それでも諦めない強い心、貫き通す信念があつてこそ、新たな歴史が刻まれていくものだと思います。皆さんも、これまでの概念を覆すような「チャレンジ精神」も時には必要です。私も含めて、共に「チャレンジ」していきましょう。

1学期を終えて、いろんな意味で次のステージに進もうとする皆さんに、「基本」の大切さ、そして「チャレンジ」についての話をしました。ここで大切なのは、「基本」と「チャレンジ」は決して、両極にあるもの、反対のものではないということです。基本を大切にす

る人ほど、自信を持って新しいことに挑戦できます。「基本」と「チャレンジ」は、互いに支え合い、人を成長させる両輪なのです。そういう意味で今日は、この話をしました。ぜひ、これらを意識しながら、皆さんが自ら考え、実践するという「自考実践」に取り組んでみてください。

夏休みは、自分を大きく成長させることができる貴重な期間です。学習に励む人、部活動に打ち込む人、家庭や地域でさまざまな経験をする人、それぞれが充実した時間を過ごしてほしいと期待します。そして、何よりも、自分の命を大切にしてください。交通事故、水難事故、熱中症など、危険は身近にあります。また、自分の命と同じように、周りの人の命も大切にしてください。そして、明るく楽しい中五島高校であり続けましょう。

(第1学期終業式 校長講話より抜粋)